

エコツアーリズム大会総括と課題

十一月二十八日から十二月一日までの四日間、沖縄コンベンションセンターでエコツアーリズム国際大会・沖縄が開催された。国連の国際エコツアーリズム年を記念した同大会では、西表島のリゾート開発計画など、エコツアーリズムを取り巻く現状も議論になった。大会の運営に事務局としても携わった、日本エコツアーリズム協会の開梨香理事に、大会の総括とエコツアーリズム推進の課題を聞いた。

(政経部・座波幸代)

―大会を振り返って。今回、世界二十四カ国が「沖縄で日本エコツアー五百五十九人の参加者リズム協会設立大会が開きを迎え、多くの人が実践催された四年前は、概念の中で浮かび上がった課題的な議論が中心だった。題を持ち、解決へ向けた

議論ができた。県民参加も多く、自分たちで地域を良くしたいという熱心

「自立には地域資源を生かした観光の推進による経済的自立と、地域の環させる仕組みをつくるかがポイントだと指摘した。今の沖縄観光は旅行社主導で、間接的にしかお金が落ちないが、地元との交流で直接お金が落ちるのがエコツアーリズム。長期的に、確実に、充実した地域づくりにつ

開 梨香

日本エコツアーリズム協会理事



「極論ではなく、バランスが大切だ」

―大会を一過性に終わらせない取り組みは。

「ホームページですべてのスピーチを紹介し、意見も集める。やんばるのフィールド視察では地元の人々がエコツアーを紹介し、地域間、参加者間のネットワークが生まれた。そのパイプを生かすのはこれからだ。海外の参加者も沖縄ファンになってくれ、今後の交流も期待できる。エコツアーの開発の調和が重要も期待できる。エコツアーの問題は各地方の急増で、西表島のリゾートを全面的にだめとポットでは環境への負荷が懸念されているが、地景観、廃水処理、規模などに配慮し、西表に適合し、ガイドラインを策定する必要がある。実践が求められる」

環境と開発の調和重要

地域のガイドライン策定を

「大会テーマの「自立」は自立経済を目指す。沖縄で、どう議論されたか。さの表れだろう」

―大会テーマの「自立」は自立経済を目指す。沖縄で、どう議論されたか。

う、二つの意味が含まれる。貧困からの脱却。JTBの船山龍二会長の旅行社の社員にとっし、経済的、精神的自立を目指す地域もある。デ

マスツーリズムにも地域の自然や文化、生活の尊重という、エコツアーリズムの要素を取り入れていく必要性を認識している

「西表島のリゾート開発が問題に挙がったが。エコツアーリズムは環境と開発の調和が重要で、リゾート開発は各地の問題になっている。リゾートを全面的にだめとポットでは環境への負荷が懸念されているが、地景観、廃水処理、規模などに配慮し、西表に適合し、ガイドラインを策定する必要がある。実践が求められる」

焦点 インタビュー

| | |
|-------|----------------|
| 新聞社名 | 沖縄タイムス朝刊 |
| 日付 | 2001年12月22日(土) |
| キーワード | 人材育成フォーラム |



人材育成フォーラム

県対米請求権事業協会(念した「沖縄観光人材育
は二十一日、那覇市のホ 成フォーラム」を開い
テルで設立二十周年を記した。七人の専門家が出席

大学院大学に観光を

沖縄版MBA制度も提言

協請求米対

し、政府の大学院大学構
想に観光分野を含めるこ
とが提案された。業界の
ほか地域や行政の分野
でも人材を育て、連携
を深めていくことを確認
した。

「基調対談」に参加し
た東北芸術工科大学副学
長の長谷川文雄氏は、「米
同時テロの対症療法だけ
でなく、沖縄版のMBA
(経営学修士)制度をつ
くり、観光の人材育成を
すべきだ」と、大学院大
学の関与を求めた。
これに対し、立教大学
観光学科長の溝尾良隆氏
は「観光教育に大学院大学の活
用を提案した人材育成フォ
ーラム」那覇市・沖縄ハ
ルビュリーホテル

は「一般的なマニュアル
は最低限のことをするた
めのもの。自分の考えを
チェックするため、学
び、行動することが必要
だ」と指摘した。
続いて開かれたパネル
ディスカッションでは、
沖縄ツーリスト副社長の
東良和氏が接客の基礎を
徹底して教える欧米企業
の人材育成法を紹介。株
式会社白石の白石武之社
長は「俱全体として観光
で食べていくという明確
な意思がない」と問題提
起した。

有限会社開(ひらき)
の開梨香社長は行政、研
究、旅行社の各分野が継
続的にかかわることが、
地域の人材育成にもつな
がる」と持論を展開した。
沖縄国際大学非常勤講師
の当銘学氏は「業界だけ
でなく、県民も観光の人
材だ」として、認識の共
有を説いた。